

総合評価

【心理所見】

児童名

生年月日 平成 年 月 日

男・女

平成 年 月 日

担当者名

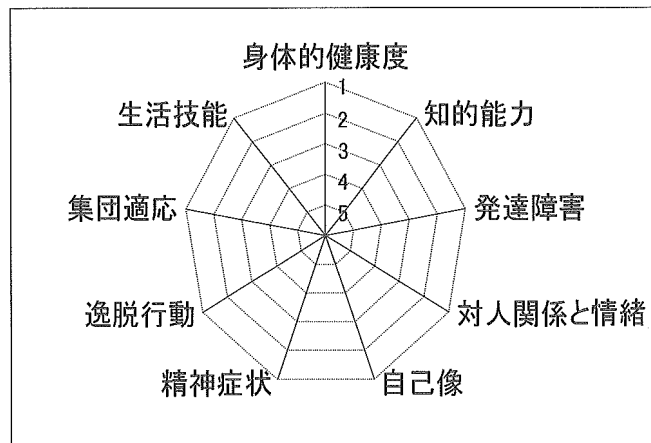
総合評価

児童名

(平成 年 月 日生)

| 項目 | 内容 | 評価 1~5 | コメント |
|----|-----------|-----------|------|
| 1 | 身体的健康度 | | |
| 2 | 知的能力 | | |
| 3 | 発達障害 | | |
| 4 | 対人関係と情緒 | | |
| 5 | 自己像 | | |
| 6 | 精神症状 | | |
| 7 | 逸脱行動 | | |
| 8 | 集団適応 | | |
| 9 | 生活技能 | | |
| 10 | 虐待の認識 | | |
| 11 | 家族関係 | | |
| 12 | 子どもを支える要素 | | |
| 13 | 子どもの意向 | | |

虐待の重症度(主に社会調査の情報より): 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
(いずれかに○をつける)



虐待の重症度

子どもへの虐待の身体的、精神的影響などにより、虐待の程度を5段階に分類

5. 生命の危機あり

「身体的虐待」などによる、生命の危険にかかわる受傷、「養育の放棄・怠慢」などのため衰弱死の危険性があるもの。

4. 重度虐待

今すぐには生命の危険はないと考えられるが、現に子どもの健康や成長、発達などに重要な影響が生じているか、生じる可能性があるもので、一時的分離、第三者による訪問指導、入院などが必要なもの。

- ① 継続的に医療を必要とするほどの外傷がある（幼児で打撲傷がある、骨折、裂傷、目の傷がある）。
- ② 生存に必要な食事、衣類、住居が与えられない。
- ③ 明らかな性行為がある。
- ④ 家から出してもらえない、部屋に閉じ込められている。

3. 中度虐待

継続的な治療を要する程度の外傷や栄養障害はないが、長期的にみると子どもの人格形成に重大な問題を残すことが危惧されるもので、一時保護や児童福祉司指導などの継続した関与が必要なもの。

- ① 今までに慢性的にあざや傷跡ができるような身体的暴力を受けていたり、長期間にわたって、養育を放棄・怠慢していたために、人格形成や情緒的問題が残りそうである。
- ② 現在の虐待が軽度であっても、生活環境などの育児条件が極度に不良なために、自然経過ではこれ以上改善が望めそうもなく、今後の虐待の増強や人格形成が危惧される。
- ③ 親に慢性の精神疾患（統合失調症、うつ病、精神遅滞、アルコール・薬物依存など）があり、子どもの世話ができない。
- ④ 乳児を長期間大人のいない家に置き去りにしている。

2. 軽度虐待

実際に子どもへの暴力があり、親や周囲の者が虐待と感じているが、一定の制御があり、一時的なものと考えられ、親子関係には重篤な病理がみられないもので、継続指導などのある程度継続した関与が必要なもの。

- ① 外傷が残るほどではない暴力。
- ② 子どもの健康問題を起こすほどではないが「養育の放棄・怠慢」傾向がある。（例：子どもの世話が嫌で、時々ミルクをあげないことがある。）

1. 虐待の危惧あり

暴力や「養育の放棄・怠慢」の虐待行為は明らかなものはないが「たたいてしまいそう」「世話をしたくない」などの子どもへの虐待を危惧する訴えがあり、または状況などからそのおそれがあるもので、助言による指導などが必要なもの。

総合評価基準尺度

| レベル | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|--|---|--|--|------------------------|
| 基本的考え方 | 通常の生活に多くの困難を伴う、疾患、障害、それに準ずる状態の場合で、専門的治療・対応の範囲入院、専門施設での対応が必要となる | 問題が多い 専門的支援を受けながら通常の生活をしているが、日常的に多くの援助が必要がある | 問題がある 通常の生活の中で、時に応じて援助が必要となる | 一応通常の生活でやれるが注意を要し、今後の経過によっては援助が必要となる可能性がある | 問題はない |
| 1. 身体的健康度・発育 | 入院治療が必要 | 常時通院治療が必要 | 普段の治療は必要ないが、時に応じてかかりつけの医師前に相談することが必要 | 治療をしたことはないが、弱な体質 体力がなくなるとすぐ風邪をひいたり疲れやすい | 健康で発育も心配はない |
| 例：低身長 | SSDを超える身体発育の停滞 | SSDを超える身体発育の停滞 成長ホルモンの治療を受けている | これまでに低身長が既往があった 定期的に通院して経過観察されている | 小柄で顔色が悪くやせが目立つ | 発育の問題はない |
| 例：喘息 | 発作の入院や健康学園・養護学校などでの生活が求められる | 予防的授業が行なわれている | 喘息の既往があり、1年に何回かの発作時に治療を受けている | アレルギー体質は否定できない | 健康 |
| 2. 知的能力 | IQが50以下か、IQ50-70で適応上の問題がある。 | IQが70以下であるが、適応上の問題はあまりない。 | 境界知あるいは普通知で、学業の問題が大きく、通常の授業についていけない。 | 普通知であるが学業成績との間にギャップがある | 普通知で問題はない |
| 例：小学校高学年 | IQ60で心障等級 クラスへの参加は不良 着席して取り組めず、強いと 登校を促す | IQ60で心障等級 クラスへの参加は良好 与えられる課題に意欲的に取 り組める | IQ80で普通級 成績最下位で2学年程度遅れ ている | IQ100で普通級 成績は下位 | IQ100で普通級 成績は中位 |
| 3. 発達障害 (ADHD、LD、PDD) *専門機関で判定していても、準 じて判断する | 診断されており、合併する 逸脱行動、二次的情緒障 害が重篤で、入院や専門施 設での生活が適当 | 診断できるレベルで定期的 に専門家の指導や治療を 受ける必要がある 逸脱行動や二次的情緒障 害も認める | 診断できるレベルで生活の 中で対応に工夫している 当面薬物療法は不要と考 えられている | 診断されてはいないかその レベルではない しかし能力の偏りや適応の 悪さなど発達障害の傾向が みられ注意を要している | 診断されておらず、その傾 向も認めない |
| 例：教育環境 | 養護学校、心障等級を利用し ている | 心障等級、情緒障害級を利 用している | 普通級に加えて個別指導の利 用など | 普通級に在籍するが、成績は 不良で今後の経過では対策が 必要となる | 普通級で学ぶことができる |

総合評価基準尺度

| レベル | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|--|--|--|
| <p>4. 対人関係と情緒 (愛着形成、共感性などの問題)</p> <p>例：小学生年代の対人関係</p> | <p>人を信頼する力に欠け、かわる時に適切な距離を取ることができず情緒の混乱を起こしやすい 浅薄な感情、共感性の欠如など感情機能に欠陥がある 専門的施設での治療的関与が必要</p> <p>不安定で表面的な対人関係に 加えて、共感性の欠如が顕著で良心が育っておらず、人を物のように扱って操作したり欺いたりする。誰とも関係がつかない</p> | <p>特定の人としかろろうじて関係を築くことができないが、それ以外の人とは適切な距離を取ることができずトラブルが多い 共感性に乏しく情緒的にも不安定で専門的ケアも含めた多くの援助が必要</p> <p>見ず知らずの人にべたべたしたり、ささいなことでも相手を嫌になつたり、自分を愛そうとする人には抵抗する。安定した対人関係がなかなか築けず、忍耐強く接する大人とはかろうじて関係が成立している</p> | <p>何人かの人と関係を築けるが、共感性が充分でなくそれ以外の人との関係は不安定でトラブルを引き起こしやすい 時に情緒的混乱のため指導や援助が必要となる</p> <p>不信感、警戒心、孤立感などみられ、消極的、表面的な対人関係が攻撃的、挑発的なが、人との関係を求め向人かの人とは信頼に基づいた関係が作れる</p> | <p>共感性はあり基本的な対人関係を築けるが、情緒的な安定感はない トラブルがないように一定の見守りと配慮が必要</p> <p>やや防衛的、自分本位なかわりなどやりやすくとトラブルになつたり、信頼に基づいた対人関係を築ける</p> | <p>人を信頼する力があり、共感性に問題はなく安定した対人関係を築ける 情緒的にも年齢相応に安定している</p> <p>年齢相応の思いやりのある信頼に基づいた対人関係をもつことができる。人と一緒に楽しむことができ情緒的にも安定している</p> |
| <p>5. 自己像 (自己認識、自己評価など)</p> <p>例：自己像</p> <p><自分の好きなどところ？></p> | <p>自己を存在に値しないと一貫して否定的に認識している 他者の見方を取り入れられない 死にたい、生きていてもしょうがないと常に思っており、それが自己破壊的、もしくは自己抑制的な行動を生じさせている。</p> <p>「全然ない(きっぱり)」「なくでも何かあるでしょう?」「ないよ」 この前サッカーでゴールしたじゃない?」「ゴールしても誰も寄ってこなかったでしょ、みんなに嫌われてるんだよ。」</p> | <p>基本的な自己の否定的認識が強い</p> <p>自己否定的な意識を持っており、投げやりな態度や自暴自棄的な行動が時に表れることがある。</p> <p>「全然ない(きっぱり)」「なくでも何かあるでしょう?」「ないよ」 この前サッカーでゴールしたじゃない?」「ああ、あれね、あれは良かったね。」</p> | <p>自己の否定的認識が肯定的認識よりも優勢である</p> <p>自己否定的な思いを抱いており、それを言葉にすることもありますが、行動化することはない。</p> <p>「あまりない、いつも悪いことしちゃうし・・・サッカーこの前ゴール決めたことくらいかな」</p> | <p>自己を肯定的に捉えることができるが、時に否定的に考える</p> <p>時に自己否定的な思いを抱くこともあるが、おおむね自己像は安定している</p> <p>「人に優しくできる、サッカーで頑張れるよ。」</p> | <p>自己否定的な言動は見られず、安定している。自分の長所を言うこともでき、自分のありのままを受容している。</p> <p>「人に優しくできる、サッカーで頑張れるよ。」</p> |
| <p><自分の好きなどところ？></p> | <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> | <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> | <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> | <p>「なんだらう?時々ぶざげすぎちゃうことかな、でも怒られることは少ない。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> | <p>「なんだらう?時々ぶざげすぎちゃうことかな、でも怒られることは少ない。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> |
| <p><自分の好きでないところ？></p> | <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、いいところ全くない、生きていても迷惑をかけるだけ、早くいなくなつた方が良くいと思う。」</p> | <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> <p>「全部、性格も頭も悪い、可愛くないし、いつも怒られてばかりいる。」</p> | <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> <p>「時々意地悪しちゃう、でも後で謝れる」「ちよつと嫌になることもあるけど、自分はずすぎ。」</p> | <p>「なんだらう?時々ぶざげすぎちゃうことかな、でも怒られることは少ない。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> | <p>「なんだらう?時々ぶざげすぎちゃうことかな、でも怒られることは少ない。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> <p>「自分は良いところも悪いところもあるけど、このままで良いと思う、こんな自分が好きだ。」</p> |

総合評価基準尺度

| レベル | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|--|--|---|--|---|--|
| 6. 精神症状、精神疾患 (PTSD、解離症状、抑うつ、神経症的症状など) *医療機関を受診していても、準じて判断する 例：自傷行為 | 精神症状があり、入院治療の適応である 明らかに死を意図した自殺企図(大量服薬、絞首、高所からの飛び降りなど)があり、入院治療が必要 | 精神症状があり、医療機関で継続的な通院治療を受ける必要がある 自傷行為(リストカット、過量服薬)が頻繁で治療的介入が必要 | 精神症状があり、増悪した時には医療機関で治療を受ける心理ケアは常時受けることが必要 時に軽い自傷行為(出血のない自傷、頭突きなど)がみられ、支援が必要となる | 精神症状はあるが、程度は軽い あるいは以前精神症状があった 自傷行為は認めないが、傷つけたくなる気持ちを折述べる | 精神症状は存在しない 自分を傷つけたいとか死にたいとの気持ちはない |
| 7. 逸脱行動 (暴力、衝動的・攻撃的行動、性的逸脱行動、非行動・多動など) 例：性的逸脱行動 | 人への暴力や迷惑行為、器物破損、非行などが激しく、専門的施設で生活させながらの治療・指導が必要 性暴力、売春などがあり、通常指導では改善しない 法的措置や入院治療の適応となる | 日常的に暴力や迷惑行為があり、専門的支援と濃密な指導が必要 年齢不相応な性的接触(思春期の同意の上でのキス、性交)、言葉と態度での性的勧誘、迷惑行為(下着盗み、風呂場ののぞき)、年少児の強迫的な自慰行為などの性的逸脱行動が頻繁で、専門的支援と日常的な注意や指導を多く必要としている | 時に暴力や迷惑行為があり、折々に指導や援助が必要 例えば時に軽い性的接触を求めたり(思春期の服の上からの抱擁など)、挑発行動(言葉で異性をからから、異性の性的注目を喚起する服装や態度など)、性的メディアへの耽溺などがあ | 暴力はほとんどない 言葉や態度で周囲を支配したり迷惑をかける時がある 年齢不相応に性的関心が高く、言葉で周囲に不快感を与えることがあり、今後逸脱行動に至る危険性がある | 問題はない 性的関心や行動は年齢相応であり問題はない |
| 8. 集団適応 (集団参加、協調性、対人関係スキルなど) 例：小学校高学年の子どもの慣れない場面での集団参加 | 集団参加が全くできない 専門施設などでの対応が必要 集団での参加は難しい。個別の対応をしている | 集団参加は基本的に難しく、日常的に丁寧な指導・援助や特別プログラムが必要 職員が付き添ったり、常に見守っていることにより何とか集団参加ができる | 協調性に乏しく課題によっては集団参加はできない 時に応じて適切な援助が必要である 集団で何か活動する時には、個別の声かけや励まし、もしくは注意が必要である | ある程度の協調性はあり 集団参加はできるが、今後年齢が上がり課題が難しくなる可能性がある 初めての集団でも何とか参加できるが、時に声かけや励ましが必要となる | 年齢相応の集団参加で協調性がある 集団参加に問題はない、仲良く楽しめる |
| 9. 生活技能 (生活習慣、身辺自立など) 例：保護所での就寝と起床 | 年齢相応の生活習慣と身辺処理が身につけておらず 通常の生活が困難 専門的な介入が望ましいレベル 保護所入所後も、職員が注意をするにもかわらせず、昼夜逆転の生活スタイルがまったく改善しない | 生活習慣・身辺自立に常に問題があり、日常的に丁寧な指導・援助や特別プログラムが必要 職員が何度も声をかけなければ、就寝・起床を行なえず、日課にのれないことが多い | 生活習慣・身辺自立に若干の問題があり、時に応じて援助が必要である 就寝と起床ともに、しばしば職員の声かけが必要で、時に日課にのれないことがある | 生活習慣や身辺処理はほぼ年齢相応である しかし今後年齢が上がり到達目標が高くなると困難になる可能性がある 就寝・起床ともに、概ね行なえる 頻回の声かけが必要な日もあ | 年齢相応に身辺自立し、規則正しい生活ができる 就寝・起床ともに、スムーズに行なうことができる 日によっては声かけが必要なることもあるが、問題とならぬ程度 |

○ 説明

このアンケートには、子どもが考えること、感じること、することが44個書かれています。それぞれの文を読んで、どれくらいそういったことがあるかを、当てはまる数字に○をつけて答えて下さい。

| | | | | |
|--------------|---|---|---|---|
| 0は全くないとき | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 1はたまにあるとき | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 2はときどきあるとき | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 3はいつもそうであるとき | 0 | 1 | 2 | 3 |

例えば、あなたが学校にたまに遅刻するのならば、この文の1に○をつけて下さい。

例) 学校に遅刻する.....0 ① 2 3

| | 0 | 1 | 2 | 3 | ない | たまに | ときどき | いつも |
|--------------------------------------|---|---|---|---|----|-----|------|-----|
| 1. 悪い夢やとても怖い夢を見る..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 2. 悪いことが起こるのではないかと思って、怖くなる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 3. 怖い考えや怖い場面が、とつぜん頭の中に浮かび上がってくる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 4. 誰か別の人になったふりをする..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 5. 口げんかをよくする..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 6. ひとりぼっちだと感じる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 7. とても悲しくなったり、不幸せだと感じる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 8. 前にあった嫌なことを思い出してしまう..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 9. 心から消してしまっ、考えないように努力している..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 10. 怖いことを思い出してしまう..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 11. 大声で叫んだり、ものを壊したくなる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 12. 泣く..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 13. わけもなく急にすべてが怖くなってしまふ..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 14. ものすごく腹が立って、落ちつくことが出来ない..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 15. めまいがする..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 16. 人に向かって大声でひどいことを言いたくなる..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 17. 自分自身をひどい目にあわせたい..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |
| 18. 他人をひどい目にあわせたい..... | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | |

| | ない | たまに | ときどき | いつも |
|---|----|-----|------|-----|
| 19. 男 <small>おとこ</small> の人を怖い <small>こわ</small> と感じる <small>かん</small> | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 20. 女 <small>おんな</small> の人を怖い <small>こわ</small> と感じる <small>かん</small> | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 21. 自分 <small>じぶん</small> の身体 <small>からだ</small> の中 <small>なか</small> が汚 <small>よご</small> れていると感じ <small>かん</small> て、身体 <small>からだ</small> を洗 <small>あら</small> う | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 22. 自分はバカ <small>ばか</small> だとか、悪い <small>わる</small> 子 <small>こ</small> だとか思 <small>おも</small> ってしまう | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 23. 何か <small>なに</small> 悪い <small>わる</small> ことをしてしまっ <small>き</small> たような気 <small>き</small> になる | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 24. まわり <small>まわり</small> の物 <small>もの</small> や出来事 <small>できごと</small> が、にせ物 <small>もの</small> のような気 <small>き</small> がする | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 25. 何か <small>なに</small> を忘 <small>わす</small> れてしまっ <small>おも</small> たり、思 <small>おも</small> い出 <small>だ</small> せない | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 26. 自分 <small>じぶん</small> が自分 <small>じぶん</small> の身体 <small>からだ</small> の中 <small>なか</small> にいないよ <small>かん</small> うな感 <small>かん</small> じがする | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 27. いらいら <small>いら</small> したり、気持 <small>きもち</small> ちが落 <small>お</small> ちつかない | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 28. 怖い <small>こわ</small> | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 29. 今 <small>いま</small> までに自分 <small>じぶん</small> に起 <small>お</small> こ <small>わる</small> った悪い <small>わる</small> ことについて考 <small>かんが</small> えずにはいられない | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 30. よくケツ <small>けつ</small> かをしてしま <small>お</small> う | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 31. わたしは冷 <small>つめ</small> たい人 <small>にんげん</small> だ | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 32. 自分 <small>じぶん</small> がどこか別 <small>べつ</small> のところに <small>お</small> るふりを <small>お</small> する | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 33. 暗 <small>くら</small> いところが <small>こわ</small> い | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 34. いろいろ <small>いろいろ</small> なことを心 <small>しんぱい</small> 配 <small>ぱい</small> する | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 35. わたしのことを好 <small>す</small> きになっ <small>ひと</small> てくれる人 <small>ひと</small> なんて、誰 <small>だれ</small> もい <small>だれ</small> ない | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 36. 思 <small>おも</small> い出 <small>だ</small> したくないことを思 <small>おも</small> い出 <small>だ</small> してしまう | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 37. 頭 <small>めだま</small> が空 <small>から</small> っぽになっ <small>ま</small> たり、真 <small>ま</small> っ白 <small>しろ</small> になっ <small>ま</small> たりする | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 38. 人 <small>ひと</small> を憎 <small>にく</small> んでいるよ <small>かん</small> うな感 <small>かん</small> じがする | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 39. どんな気持 <small>きもち</small> ちも持 <small>も</small> たないよ <small>どりよく</small> うに努 <small>どりよく</small> 力 <small>りよく</small> している | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 40. すごく腹 <small>はら</small> が立 <small>た</small> つ | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 41. 誰 <small>だれ</small> かがわたしを殺 <small>ころ</small> そうとしてい <small>おも</small> るよ <small>こわ</small> うに思 <small>おも</small> って、怖 <small>こわ</small> くなる | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 42. あんな悪い <small>わる</small> ことが起 <small>お</small> こらな <small>ねが</small> ければよ <small>ねが</small> かったの <small>ねが</small> にと願 <small>ねが</small> う | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 43. 自殺 <small>じさつ</small> したい | 0 | 1 | 2 | 3 |

| | ない | たまに | じょうじゆ | いつも |
|--|----|-----|-------|-----|
| 44. <small>ひるまほ</small> - <small>ほか</small> <small>かんが</small> <small>き</small> 昼間ポーっと他のことを考 <small>かんが</small> えてしまって、まわりのことに・・・ 気づかないことがある | 0 | 1 | 2 | 3 |

TSCC採点表

名前: _____

| | 得点 | | ANX | DEP | ANG | PTS | DIS | DIS-O | DIS-F |
|----|----|--|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 1 | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | | |
| 28 | | | | | | | | | |
| 29 | | | | | | | | | |
| 30 | | | | | | | | | |
| 31 | | | | | | | | | |
| 32 | | | | | | | | | |
| 33 | | | | | | | | | |
| 34 | | | | | | | | | |
| 35 | | | | | | | | | |
| 36 | | | | | | | | | |
| 37 | | | | | | | | | |
| 38 | | | | | | | | | |
| 39 | | | | | | | | | |
| 40 | | | | | | | | | |
| 41 | | | | | | | | | |
| 42 | | | | | | | | | |
| 43 | | | | | | | | | |
| 44 | | | | | | | | | |
| | | | ANX | DEP | ANG | PTS | DIS | DIS-O | DIS-F |
| | | | | | | | | | |

TSCCT得点化表
名前

| | ANX | DEP | ANG | PTS | DIS | DISO | DISF | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|
| 109 | | | | | 30 | | | 109 |
| 108 | | | | | 29 | | | 108 |
| 107 | | | | | 29 | | | 107 |
| 106 | | | | | 2 | | 9 | 106 |
| 105 | | | | | 2 | | 9 | 105 |
| 104 | | | | | 2 | | 9 | 104 |
| 103 | | 27 | | | 27 | 21 | | 103 |
| 102 | | 26 | | | 27 | 21 | | 102 |
| 101 | | 26 | | | 26 | 20 | | 101 |
| 100 | | 25 | | | 26 | 20 | | 100 |
| 99 | | 25 | | | 25 | 19 | | 99 |
| 98 | 27 | 24 | | | 25 | 19 | 8 | 98 |
| 97 | 26 | 24 | | | 24 | 18 | | 97 |
| 96 | 25 | 23 | | | 23 | 17 | | 96 |
| 95 | 24 | 22 | | | 22 | 17 | 7 | 95 |
| 94 | 24 | 22 | | | 22 | 16 | | 94 |
| 93 | 23 | 21 | 27 | 30 | 21 | 15 | | 93 |
| 92 | 23 | 21 | 26 | 29 | 20 | 14 | | 92 |
| 91 | 22 | 20 | 25 | 28 | 19 | 13 | | 91 |
| 90 | 22 | 20 | 25 | 27 | 19 | 12 | | 90 |
| 89 | 21 | 19 | 24 | 26 | 18 | 11 | 6 | 89 |
| 88 | 20 | 18 | 23 | 26 | 18 | 10 | | 88 |
| 87 | 20 | 18 | 22 | 25 | 17 | 9 | | 87 |
| 86 | 19 | 17 | 21 | 24 | 16 | 8 | | 86 |
| 85 | 18 | 17 | 21 | 24 | 15 | 7 | | 85 |
| 84 | 18 | 16 | 20 | 23 | 14 | 6 | | 84 |
| 83 | 17 | 16 | 20 | 22 | 13 | 5 | | 83 |
| 82 | 17 | 15 | 19 | 22 | 12 | 4 | | 82 |
| 81 | 16 | 15 | 18 | 21 | 11 | 3 | | 81 |
| 80 | 16 | 14 | 18 | 20 | 10 | 2 | | 80 |
| 79 | 15 | 14 | 17 | 19 | 9 | 1 | | 79 |
| 78 | 14 | 13 | 17 | 19 | 8 | 0 | | 78 |
| 77 | 14 | 13 | 16 | 18 | 7 | 0 | | 77 |
| 76 | 13 | 12 | 15 | 17 | 6 | 0 | | 76 |
| 75 | 12 | 11 | 14 | 16 | 5 | 0 | | 75 |
| 74 | 12 | 11 | 14 | 16 | 4 | 0 | | 74 |
| 73 | 11 | 10 | 13 | 15 | 3 | 0 | | 73 |
| 72 | 10 | 10 | 12 | 14 | 2 | 0 | | 72 |
| 71 | 10 | 9 | 12 | 13 | 1 | 0 | | 71 |
| 70 | 9 | 8 | 11 | 12 | 0 | 0 | | 70 |
| 69 | 8 | 8 | 10 | 11 | 0 | 0 | | 69 |
| 68 | 8 | 7 | 10 | 11 | 0 | 0 | | 68 |
| 67 | 8 | 7 | 10 | 11 | 0 | 0 | | 67 |
| 66 | 7 | 7 | 9 | 10 | 0 | 0 | | 66 |
| 65 | 7 | 7 | 9 | 10 | 0 | 0 | | 65 |
| 64 | 6 | 6 | 8 | 9 | 0 | 0 | | 64 |
| 63 | 6 | 6 | 7 | 8 | 0 | 0 | | 63 |
| 62 | 5 | 5 | 7 | 8 | 0 | 0 | | 62 |
| 61 | 5 | 5 | 6 | 7 | 0 | 0 | | 61 |
| 60 | 4 | 4 | 6 | 7 | 0 | 0 | | 60 |
| 59 | 4 | 4 | 5 | 6 | 0 | 0 | | 59 |
| 58 | 4 | 4 | 5 | 6 | 0 | 0 | | 58 |
| 57 | 3 | 3 | 4 | 5 | 0 | 0 | | 57 |
| 56 | 3 | 3 | 4 | 5 | 0 | 0 | | 56 |
| 55 | 3 | 3 | 4 | 5 | 0 | 0 | | 55 |
| 54 | 2 | 2 | 3 | 4 | 0 | 0 | | 54 |
| 53 | 2 | 2 | 3 | 4 | 0 | 0 | | 53 |
| 52 | 2 | 2 | 3 | 4 | 0 | 0 | | 52 |
| 51 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | | 51 |
| 50 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | | 50 |
| 49 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | | 49 |
| 48 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 48 |
| 47 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 47 |
| 46 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 46 |
| 45 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 45 |
| 44 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 44 |
| 43 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 43 |
| 42 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 42 |
| 41 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 41 |
| 40 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 40 |
| 39 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 39 |
| 38 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 38 |
| 37 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 37 |
| 36 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 36 |
| 35 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 35 |
| | ANX | DEP | ANG | PTS | DIS | DISO | DISF | |
| RAW SCORE | | | | | | | | |
| T SCORE | | | | | | | | |

子どもの行動観察チェックシート

(一時保護所用)

児童名 _____ 年齢 _____ 歳 学年 小・中 年 _____ 児童相談所 _____

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日入所 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日記載 記載者(_____)

| | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|-------|------|--------|-------|
| 入退所時の状況 | 入所 | (1) 入所を納得せず抵抗する | ない | ややある | ある | 非常にある |
| | | (2) 面接時に攻撃的、暴力的などの言動がある | ない | やや | ある | 非常に |
| (3) 極端なおびえ、情緒不安、チックなどの症状がある | | ない | やや | ある | 非常に | |
| (4) 集団へ溶け込もうとしない | | ない | やや | ある | 非常に | |
| 確認 入所理由に関する本人の理解度、保護者等との別れのときの様子 | | | | | | |
| その他、入所時に気になること | | | | | | |
| 退所 | 確認 退所に対する本人の気持ち、保護者等との面会場面の様子 | | | | | |
| | その他、退所時に気になること | | | | | |
| 睡眠 | (5) 寝つきが悪かったり、夜間目を覚ましたりする | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | (6) 怖い夢を見ると訴える、もしくは夜驚がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (7) 寝ることを嫌がる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (8) 個別に何度も声をかけないと、なかなか起きられない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (9) 寝起ぎ、疲れた顔つきである | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| その他、睡眠に関して気になったこと | | | | | | |
| 食事 | (10) 食欲がない | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | (11) 過食がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (12) 偏食がある、好き嫌いが激しい | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (13) 食べたり食べなかったりと不規則に食事を取る | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (14) 立ち歩き、遊び食べ、姿勢の悪さなど食事のマナーが育っていない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (15) 他の児童と一緒に食事ができない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (16) 食べ物に執着する | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| その他、食事に関して気になること | | | | | | |
| 排泄 | (16) 下痢や便秘が多い、もしくは多いと訴える | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | (17) 昼間、排尿での失敗がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (18) 昼間、排便での失敗がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (19) 夜尿がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (20) 頻尿がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (21) トイレ以外（風呂、ベランダ等）で排泄する | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (22) 下着を汚しても自らは着替えようとせず平気である | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | その他、排泄で気になること | | | | | |
| 入浴・洗面 | (23) お風呂に入りたがらない | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | (24) 一人での入浴や着替えを嫌がる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (25) お湯やシャワーを怖がる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (26) 人前で着替えたがらない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (27) 入浴時髪や体を洗うのに介助や声かけが必要 | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | (28) 洗面や歯磨きをしないことがある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| その他、入浴等で気になること | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|-----------------------------------|-------|-------|--------|--------|
| 日 課 と 生 活 課 2 | 身 辺 整 理 | (29) 暑いのに厚着、寒いのに薄着など衣類の調節ができない | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | | (30) 潔癖なほどきれいに部屋を片付ける | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (31) 片づけや整理ができない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (32) おもちゃや漫画・本など共用物の扱いが乱暴で壊してしまう | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (33) 自分の持ち物の管理ができずなくしたりする | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | その他、身辺整理等に関して気付いたこと | | | | | |
| | 健 康 状 態 | (34) 腹痛、吐き気、頭痛などの身体の不調を訴える | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | | (35) 体調不良の状態が続く | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (36) 怪我をする | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (37) たいした怪我や症状でないのに、色々手当てをしてもらいたがる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (38) 具合が悪くても気にせず、治そうとしない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | その他、健康に関して気になること | | | | | |
| | 日 課 | (39) 当番や掃除を嫌がる | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | | (40) 運動を嫌がる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (41) 一つひとつに声かけがないと日課の課題にのれない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (42) 学習の習慣がなかったり、取り組む意欲が見られない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (43) 学年に比べ学力に遅れがある | ない | ややある | ある | 非常にある | |
| | | 確認 学習の習熟度 国語 _____ 年生程度、 算数・数学 _____ 年生程度、 英語 _____ 年生程度 | | | | | |
| | 性 格 及 び 対 人 関 係 1 | 性 的 問 題 | (44) 職員に身体接触を求める際、どこか性的なニュアンスを感じる | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある |
| | | | (45) 不適切な性的な言動がある | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| (46) 年齢に比べて性的な事柄に対する関心が高い | | | ない | ややある | ある | 非常にある | |
| その他、性的な問題に関して気になること | | | | | | | |
| 職 員 や 大 人 と の 関 係 | | (47) 困りごと、心配事があっても職員に相談してこない | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある | |
| | | (48) 職員や大人を信用していない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (49) 職員など大人には、だれかれなしにべたべた甘えてくる | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (50) 職員の指示や保護所の決まりに従わない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (51) 他の子どもに比べて職員から怒りを引き出す | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (52) 職員や大人に対して反抗的な態度を示す | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | (53) 大人の心を傷つける言動がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | | その他、大人に対して気になること | | | | | |
| | | 子 ども 集 団 で の 関 係 等 1 | (54) 誰とも親しい関係をもてない | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある |
| (55) 自分の都合のよいように周りの児童を使う | | | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| (56) 非行傾向のある児童と好んで遊ぶ | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (57) 悪いことや規則違反でも誘われるとやってしまう | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (58) 自分を誇示するような言動がある | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (59) 強いものには服従的である | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (60) 相手との力関係で態度を変える | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (61) 相手を見下すような態度をとりがちである | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (62) 年少児童など弱者へ暴力や威圧的態度がある | ない | | たまに | 時々 | しばしば | | |

| | | | | | | |
|---|--------------------------|---|------|-------|--------|--------|
| 性 格 及 び 対 人 関 係 2 | 子ども集団での関係等2 | (63) ちょっとしたこと、友達等にイライラをぶつける | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (64) 遊びなど自分勝手な行動でトラブルを起こす | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | (65) うまく集団に溶け込めない | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| | 確認 どのような子どもと、どんな遊びをしているか | | | | | |
| | その他、子どもどうしの関係で気になること | | | | | |
| | 情 緒 面 | (66) チック・かん黙・吃音などの症状がある | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある |
| | | (67) 衝動的に行動してしまう | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (68) 多動でじっとしていることができない | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (69) 注意の集中ができない | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (70) 感情を爆発させたり、過呼吸発作を起こしたり、物を壊したり、人に殴りかかったり、壁に頭をぶつけたりなど、いわゆるパニック状態となる | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (71) 機嫌がよかったと思えばイライラしたり、ハイテンションになったりする | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (72) 些細なことで非常に激しい怒りをもつ | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (73) リストカットなどの自傷行為がある | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (74) 「死にたい」ともらす | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (75) 感情が表情に表れない | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (76) 否定的な感情の表現（悲しい、腹が立つなど）がない | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (77) 肯定的な感情の表現（うれしい、たのしいなど）がない | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (78) ポーとしてうつろな目をすることがある | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (79) 自分のしたことを忘れてしまう | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (80) 常に緊張しており、表情や動きが硬い | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| (81) スポーツや趣味で得意だったり、自信を持っていることがない | | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| (82) 勉強で何か得意な分野や自信を持っているものがない | | ない | たまに | 時々 | しばしば | |
| (83) 何事につけても自信がない | | ない | ややある | ある | 非常にある | |
| (84) 遊びや趣味などで夢中になれるものがない | ない | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (85) どうせ自分なんかなどと、自分を卑下したようなことを言う | ない | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (86) 実際の年齢より幼い行動がある | ない | たまに | 時々 | しばしば | | |
| (87) 要求をきちっと言えなかったり、すぐ諦めたりする | ない | たまに | 時々 | しばしば | | |
| その他、情緒面で気になること | | | | | | |
| 児童の意見 | (89) 今後の援助指針を受け入れない | 納得 | しぶしぶ | 不納得 | 強く抵抗 | |
| その他、援助指針の受入れについて気になること | | | | | | |
| 特 記 す べ き 行 動 等 | その他の問題行動 | (89) 無断外出を企てる | ない | 計画した | 未遂があった | 実行した |
| | | (90) 他の児童のものや、共用物を盗む | ない | たまにある | 時々ある | しばしばある |
| | | (91) 子どもとしてふさわしくないことを話題にしたり、遊びをする | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (92) 警察官に特異（茶化し、反抗的態度、怯え等）な反応をする | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| | | (93) 高いところから飛び降りるなど危険なことをする | ない | たまに | 時々 | しばしば |
| その他、日常生活で気になること | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
児童福祉機関における思春期児童等に対する心理的アセスメントの導入に関する研究
（主任研究者 西澤哲）

分担研究報告書

分担研究者 奥山真紀子 国立成育医療センター

虐待を受けた乳幼児の行動チェックリストの開発とその応用

奥山真紀子・泉真由子（国立成育医療センター）

研究要旨

当分担研究班ではこれまでに、特に不整備が指摘されている乳幼児に対するアセスメント方法を構築する目的で、生後6ヶ月から小学校就学前までの乳幼児を対象としたアセスメントツール（『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト（仮称）』）の開発を担当した。そこで本年度は、まず当チェックリストの有用性の確認を行い、施設入居中の虐待を受けた乳幼児の心理面、行動面での状態を的確に評価することを証明した。更に当チェックリストを用いた応用研究として、背景要因の検討を行い、どのような背景要因を持つ子どもに「心理面・行動面での問題が多発しているか」、また「虐待経験があるか」の2点を検討した。その結果、これまでも「入所経験」がある幼児のほうが、そうでない（今回が初回の入所）幼児よりも心理面・行動面での問題が大きいこと、また「喪失体験」や「その他の何らかのトラウマ体験」を持つことは、乳幼児の心理面・行動面での問題を誘発する可能性があることが示唆された。更に、施設入所中の子どもにおいては、「性別」、「知能指数」、「何らかの慢性疾患の存在」といった個人的特徴、「喪失体験の有無」、「その他のトラウマ体験の有無」といった成育歴、また「入所時年齢」、「入所期間」といった施設利用特徴が、被虐待経験の有無と関連があることが明らかとなった。これらの結果は、施設入所中の子どもを支援・援助する際の注目すべき視点であることが示唆された。

A. 背景

乳幼児期に不適切な養育（maltreatment）を受けることは、幼児期の愛着の問題、トラウマ反応、自己調節の問題、感覚や運動の問題を引き起こす可能性や、将来の精神障害（mental disorder）の発症へのリスクを高めることが知られており、早期からのケアや治療のあり方の確立が急務であると考えられている。しかしながら現在のところ、このような被虐待児が発見された場合に保護される児童相談所や児童福祉施設等で使用可能な、子どものケアや治療に役立つ精神的アセスメントツールが存在しな

い。そこで、特に不整備が指摘されている乳幼児に対するアセスメント方法を構築する目的で、生後6ヶ月から小学校就学前までの乳幼児を対象とする「虐待を受けた子どもの行動チェックリスト（仮題）」を作成し（2003年）、標準化を行った（2004年）。これは、「生後6ヶ月から2歳未満」と「2歳以上小学校就学前まで」を対象とした2種類があり、それぞれを資料1・2として後に示す。そして一般乳幼児1901名を対象として標準化を行いT得点を算出した（2004年）。

本年度は、全国の乳児院・養護施設に入所中

の乳幼児を対象として当チェックリストの有用性の確認をするとともに、応用研究として、背景要因の検討を行い、どのような背景要因を持つ子どもに「心理面・行動面での問題が多発しているか」、また「虐待経験があるか」の2点の検討も併せて行った。

B. 目的

以上のような背景から、以下の2点を目的とした調査研究を行った。

- (1) 作成した『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト(仮題)』を用いて、児童福祉施設(乳児院、養護施設)に入所中の子どもに実施し、当アセスメントツールの有用性を確認する。
- (2) 完成した『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト(仮題)』の応用ということで、当該チェックリストの結果と、その他の様々な「背景要因」との関係性を探索的に検討し、どのような背景要因を持つ子どもに心理面・行動面での問題が多発しているかを探る。
- (3) 「虐待の有無」と「背景要因」との関連性を探索的に検討し、施設入所中の子どもにおいて、どのような背景要因と被虐待経験が関連しているかを探る。

C. 対象と方法

全国の乳児院(117箇所)、養護施設(58箇所)に『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト』を配布し、6ヶ月以上から小学校就学前までの子どもについて、担当保育士がその子どもの様子を評価した。有効回答数は6ヶ月から2歳未満(以下、2歳未満群と略称)が1529名(男児845名、女児684名)、2歳から就学前まで(以下、就学前群と略称)が1201名(男児671名、女児530名)であった。

<倫理的配慮>

本研究は国立成育医療センターの倫理委員会で審査を受け、承認された。

D. 結果

1. 有用性の確認

図1に結果の分布図を示した。これより2歳未満群、就学前群ともに正規分布に比べて少しずつ右側、つまり問題が多いほうにずれていることが分かる。ここに示すグラフは「総合得点」であるが、すべての下位尺度において同様の傾向がみられた。そして、施設入所中の「虐待あり群」と「虐待なし群」、および「一般乳幼児」における結果を比較検討するために、「性別」・「現在の年齢」を統制要因として投入した共分散分析を行った。その結果、すべての下位尺度、および総合において「虐待」>「非虐待」>「一般」という順番で得点が高い、つまり問題が多いことが明らかとなった(2歳未満群;トラウマ: $F=61.37$, $p<.0001$, 愛着: $F=6.26$, $p<.05$, 感覚・行動・調節: $F=11.98$, $p<.001$, 総合: $F=24.45$, $p<.0001$, 就学前群;トラウマ: $F=234.27$, $p<.0001$, 愛着: $F=600.00$, $p<.0001$, 感覚・行動・調節: $F=41.60$, $p<.0001$, 総合: $F=210.61$, $p<.0001$)。

2. チェックリスト結果と背景要因の関係

対象となった乳幼児についてフェースシートから、「性別」、「入所時年齢」、「入所期間」、「出生体重」、「在胎週数」、「妊娠・分娩異常」、「これまでの入所経験の有無」、「虐待の種類」、「喪失体験の有無」、「その他のトラウマ経験の有無」、「基礎疾患の有無」、「入所時の様子」といった情報を収集し、これらと「チェックリストの結果」との関係性を検討した。なお、調査対象とした乳幼児期の子どもの特徴として、心身における発達のスピードが非常に速い時期であるといえる。このことを考慮して、発達や年齢が影響する可能性があると考えられた項目(入所時年齢、入所期間、これまでの入所経験の有無、虐待の種類、喪失体験の有無、その他のトラウマ経験の有無、基礎疾患の有無、入所時の様子)については、現在の年齢を統制要因として投入した共分散分析

を行った。これ以外の項目については、「性別」,
「妊娠・分娩異常」では χ^2 検定,「出生体重」,
「在胎週数」ではT検定を用いて検討した。

(1) 性別

性別ごとのチェックリストの結果の平均
値を表1に示す。各下位尺度及び総合のい
ずれにおいても性別による有意差は見られ
なかった。

(2) 入所時年齢

入所時年齢の平均値は表2に示す。各下位
尺度及び総合のいずれにおいても入所時年
齢との間に関連性は見られなかった。

(3) 入所期間

入所期間の平均値は表2に示す。各下位尺
度及び総合のいずれにおいても入所期間と
の間に関連性は見られなかった。

(4) 出生体重

出生体重の平均値は表2に示す。各下位尺
度及び総合のいずれにおいても出生体重と
の間に関連性は見られなかった。

(5) 在胎週数

在胎週数の平均値は表2に示す。各下位尺
度及び総合のいずれにおいても在胎週数と
の間に関連性は見られなかった。

(6) 妊娠・分娩異常

妊娠・分娩異常の有無別の平均値を表3に
示す。各下位尺度及び総合のいずれにおい
ても妊娠・分娩異常の有無による有意差は
見られなかった。

(7) これまでの入所経験

これまでの入所経験の有無(今回が初回の
入所かどうか)別の平均値を表4に示す。

2歳以上就学前において「入所経験あり」
群の方が、各下位尺度および総合において
有意にT得点は高く、問題が大きいことが
示された(就学前群;トラウマ: $F=6.93$, $p<.01$,
愛着: $F=6.51$, $p<.05$, 感覚・行動・調節:
 $F=20.37$, $p<.0001$, 総合: $F=12.56$, $p<.0001$)
(図2)。また、「入所経験の有無」と「虐
待経験の有無」について交互作用を検討した

ところ有意ではなく、「入所経験」と「虐待
経験」がそれぞれ独立で主効果が有意とな
った。

2歳未満群では上述のような傾向はみられ
なかった。

(8) 虐待の種類

虐待の種類別の平均値を表5に示す。各下
位尺度及び総合のいずれにおいても受けた
虐待の種類による有意差は見られなかった。

(9) 喪失体験の有無

ここでいう「喪失体験」とは、父母や兄弟
姉妹,祖父母,あるいは主な養育者といった
子どもにとって非常に重要な関係の他者と
の離別経験を指している。

喪失体験の有無別の平均値を表6に示す。
分析の結果,2歳未満,2歳以上就学前の双
方において「喪失体験あり」群の方が、「な
し」群よりも各下位尺度,および総合にお
いて得点が有意に高く,問題が大きいこと
が示された(2歳未満群;トラウマ: $F=10.91$,
 $p<.001$, 愛着: $F=3.86$, $p<.05$, 感覚・行動
・調節: $F=5.59$, $p<.05$, 総合: $F=6.28$, $p<.05$,
就学前群;トラウマ: $F=4.72$, $p<.05$, 愛着
: $F=10.05$, $p<.01$, 感覚・行動・調節: $F=3.52$,
 $p<.1$, 総合: $F=7.56$, $p<.05$) (図3)。ま
た、「喪失体験の有無」と「虐待経験の有無」
について交互作用を検討したところ,2歳未
満,2歳以上就学前の双方において有意では
なく,「喪失体験」と「虐待経験」がそれぞ
れ独立で主効果が有意となった。

(10) その他のトラウマ経験

「その他のトラウマ経験」は,具体的には
DV目撃,同胞の被虐待場面の目撃,持病の
治療,親の自殺現場目撃,災害・事故とい
ったものであった。

その他のトラウマ経験の有無別の平均値
を表7に示す。分析の結果,2歳未満では,
下位尺度の「トラウマ」と,「総合」にお
いて,「その他のトラウマ経験あり」群のほう
が「なし」群よりも有意に高く,問題が大き

いことが示された（トラウマ： $F=25.73$, $p<.0001$, 総合： $F=10.06$, $p<.01$ ）。また 2 歳以上就学前においては、各下位尺度、および総合のすべてにおいて「喪失体験あり」群の方が、「なし」群より得点が有意に高く、問題が大きいことが示された（トラウマ： $F=14.08$, $p<.0001$, 愛着： $F=11.58$, $p<.0001$, 感覚・行動・調節： $F=5.92$, $p<.001$, 総合： $F=11.29$, $p<.001$ ）。また、「その他のトラウマ経験の有無」と「虐待経験の有無」について交互作用を検討したところ、2 歳未満、2 歳以上就学前の双方において有意ではなく、それぞれの経験が独立で主効果が有意となった。

(11) 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無別の平均値を表 8 に示す。各下位尺度及び総合のいずれにおいても受けた基礎疾患の有無による有意差は見られなかった。

(12) 入所時の様子

入所時の様子として、「傷や痣」、「皮膚不潔」、「虫歯」、「衣服汚れ」、「噛まれ痕」の 5 つの項目についてその有無を判断した。そしてこれらの所見の有無別平均値を表 9 に示す。各下位尺度及び総合のいずれにおいても入所時の当該所見の有無による有意差は見られなかった。

3. 虐待の有無と背景要因の関係の検討

「虐待の有無」と、先の「2. チェックリスト結果と背景要因の関係」と同様のフェースシート情報から得られた「背景要因」との関連性を探索的に検討した。前述の通り、発達や年齢が影響する可能性があると考えられた項目では、現在の年齢を統制要因として投入した共分散分析を、それ以外の項目については、適宜 χ^2 検定、T 検定を用いて検討した。その結果を表 10 に示す。

統計的に有意な関係性が見られたのは次の項目であった。

(1) 性別

2 歳未満では男児の方が女児よりも虐待経験がある子どもが多かった ($\chi^2=6.97$, $p<.01$)。2 歳以上になるとそのような傾向は見られなかった。

(2) 入所時年齢

2 歳未満、2 歳以上 6 歳以下ともに、入所時年齢の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも有意に高かった (2 歳未満： $F=272.72$, $p<.0001$, 2 歳以上 6 歳以下： $F=77.07$, $p<.0001$)。

(3) 入所期間

2 歳未満、2 歳以上 6 歳以下ともに、入所期間の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも有意に短かった (2 歳未満： $F=274.72$, $p<.0001$, 2 歳以上 6 歳以下： $F=77.07$, $p<.0001$)。

(4) 喪失体験

2 歳未満、2 歳以上 6 歳以下ともに、喪失体験がある子どもの方が喪失体験がない子どもよりも、虐待経験のあることが有意に多かった (2 歳未満： $F=42.91$, $p<.01$, 2 歳以上 6 歳以下： $F=6.98$, $p<.01$)。

(5) その他のトラウマ体験

2 歳未満、2 歳以上 6 歳以下ともに、その他のトラウマ体験がある子どもの方がそのような体験がない子どもよりも、虐待経験があることが有意に多かった (2 歳未満： $F=97.66$, $p<.001$, 2 歳以上 6 歳以下： $F=49.15$, $p<.001$)。

(6) 知能指数 (IQ)

2 歳以上 6 歳以下では、測定結果のある子ども (162 名) に関しては、知能指数 (IQ) の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも有意に低かった ($F=5.26$, $p<.023$)。

(7) 何らかの慢性疾患の存在

2 歳未満では、何らかの慢性疾患を持つ子どもの方がそうでない子どもよりも、虐待経験があることが有意に多かった ($F=14.50$,

$p < .001$)。2歳以上になるとそのような傾向は見られなかった。

E. 考察

1. 有用性の確認

調査結果より、当チェックリストは施設入居中の虐待を受けた乳幼児の心理面、行動面での状態を的確に評価することにおいて有用であることが示された。また、当リストに含まれるチェック項目それ自体が乳幼児の心理・行動両面の問題を把握するために有効な視点を表現しているといえる。よって施設職員が当チェックリストを用いながら子どもの様子を観察することにより、キャッチしにくい乳幼児期の諸問題に気づく可能性を高めることも期待される。

2. チェックリスト結果と背景要因の関係

完成した『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト(仮題)』の応用ということで、当該チェックリストの結果と、その他の様々な「背景要因」との関係性を探索的に検討し、どのような背景要因を持つ子どもに心理面・行動面での問題が多発しているかを検討した。その結果、「入所経験の有無(今回の入所が初めてかどうか)」と「喪失体験の有無」、「その他のトラウマ経験の有無」の3つの要因について、関連性が見られた。

まず、「入所経験の有無」では、2歳以上就学前において、それ以前に入所経験がある子どもの方が今回の入所が初回である子どもよりも、各下位尺度および総合において有意にT得点は高く、問題が大きいことが示された。一方で、「入所期間(月数)」は、結果との関連性が見られなかったため、「入所期間の長さ」ではなく、「環境変化の多さ」が問題となることが示唆された。

また、「入所経験の有無」と「虐待経験の有無」について交互作用を検討したところ有意ではなく、「入所経験」と「虐待経験」がそれぞ

れ独立で主効果が有意となった。つまり「入所経験」を繰り返すことは、「虐待経験」と同様に、それだけで子どもの精神面・行動面での問題を増加させる効果を持つことが示された。これらの結果は、今後、子どもの処遇の問題を考える際に「環境変化を最小限に止める」という配慮が必要であることを示唆している。

次に、「喪失体験(子どもにとって非常に重要な関係の他者との離別経験)」についてであるが、2歳未満、2歳以上就学前の双方において、喪失体験がある子どもの方が喪失体験がない子どもよりも、各下位尺度、および総合において得点が有意に高く、問題が大きいことが示された。また「喪失体験の有無」と「虐待経験の有無」について交互作用を検討したところ、2歳未満、2歳以上就学前の双方において有意ではなく、「喪失体験」と「虐待経験」がそれぞれ独立で主効果が有意となった。つまり「喪失体験」は「虐待経験」と同様に、それだけで子どもの問題を増加させる効果を持つことが示唆された。よって「喪失体験の有無」については、子どもを支援する初期の段階で漏れなく収集されるべき情報であり、当該体験を持つ子どもに対しては、より綿密な計画を立てた上で支援・援助に当たる必要があるといえる。

次の、「その他のトラウマ経験(DV目撃、同胞の被虐待場面を目撃、持病の治療、親の自殺現場目撃、災害・事故)の有無」も同様に、これらの経験を持つ子どもの方が、持たない子どもよりも、問題が大きいことが示され、また「虐待経験」との交互作用も見られなかった。このことから、支援・援助の初期段階での情報収集の重要性が明らかであり、特に、その時点で問題となった出来事だけではなく、その子どもに起こった全ての過去の出来事に対して注意を払う必要があるといえる。

3. 虐待の有無と背景要因の関係の検討

「虐待の有無」と「背景要因」との関係性を検討し、施設入所中の子どもにおいてどのよう

な背景要因と被虐待経験が関連しているかを探ったところ、「性別」、「入所時年齢」、「入所期間」、「喪失体験」、「その他のトラウマ体験」、「知能指数」、「何らかの慢性疾患の存在」について関連がみられた。

「性別」：2歳未満では男児の方が女児よりも虐待経験がある子どもが多かったが、2歳以上になるとそのような傾向は見られなかった。乳児期の男児の特徴(女児に比べて病弱、活動性が高い)からくるある種の育て難さから、このような傾向が見られたと推測される。

「入所時年齢」：2歳未満、2歳以上就学前ともに、入所時年齢の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも有意に高く、主訴が虐待以外の乳幼児は比較的低年齢で入所していることが示された。

「入所期間」：2歳未満、2歳以上就学前ともに、入所期間の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも短かった。これは先の「入所時年齢」との関連から、主訴が虐待以外の子どもは比較的 low age で入所しているため、必然的に入所期間も長くなるものと考えられる。

「喪失体験」：2歳未満、2歳以上就学前ともに、喪失体験がある子どもの方が喪失体験がない子どもよりも、虐待経験のあることが多かった。おそらく恵まれない家庭環境において複数のストレス事象が連鎖的に生じているのだろう。これらの体験が重複することが多いという認識を持ち、子どもの支援に携わることは有益であるといえる。

「その他のトラウマ体験」：2歳未満、2歳以上就学前ともに、その他のトラウマ体験がある子どもの方がそのような体験がない子どもよりも、虐待経験があることが有意に多かった。前述のように、「喪失体験」や「その他のトラウマ体験」は「虐待体験」と同様に、子どもの精神面へのマイナスの影響力を持っていることから、これらは重複して起こる可能性が高く、重複した場合にはより手厚い支援・援助

を提供する必要があることを我々は認識すべきである。

「知能指数 (IQ)」：2歳以上6歳以下では、測定結果のある子ども (162名) に関しては、知能指数 (IQ) の平均値は、虐待経験のある子どもの方が虐待経験のない子どもよりも有意に低かった。今回2歳未満の対象数が非常に少なかったため、2歳未満では統計的有意差は証明できなかったが、おそらくこちらでも同様の結果となることが予想される。施設入所中の乳幼児において、知的発達の遅れが目立つ場合には、被虐待経験を念頭におき情報を収集することが有用であると考えられる。

「何らかの慢性疾患の存在」：2歳未満では、何らかの慢性疾患を持つ子どもの方がそうでない子どもよりも、虐待経験があることが有意に多いが、2歳以上になるとそのような傾向は見られなかった。乳児期の慢性疾患の管理は全面的に養育者の負担となり、「育てにくい子ども」という認知を養育者がもつことが予想され、このような結果となったと考えられる。慢性疾患を持つ特に乳児期の子どもや養育者に対する、予防的な視点を持った支援の必要性が示されたといえる。

以上をまとめると、施設入所中の子どもにおいて虐待経験との関連がみられるいくつかの事柄が明らかとなった。個人的特徴としては「性別が男であること」、「IQが低いこと」、「何らかの慢性疾患があること」、成育歴としては「喪失体験があること」、「その他のトラウマ体験があること」、また施設利用特徴として「入所時年齢が高い」、「入所期間が短い」といったものが挙げられる。特に個人的特徴と成育歴に関しては、これらのポイントが、被虐待経験の存在を判断するうえで有効なチェック項目となりうることが示唆された。

F. まとめ

(1) 『虐待を受けた子どもの行動チェックリスト (仮題)』は、児童福祉施設入居中の乳幼